そう、14歳になったばかりのネイマール・ジュニア君は、無限に広がる可能性を秘めた、数少ない神様の子である可能性が高い。そう言われているのだ。

1998年、当時６歳のネイマール・ジュニア君は、運命の指導者に出会った。現在、サントスFC下部組織のコーディネーターを務める、ベッチーニョがその人だ。彼は少年育成で有名なフットサルの監督で、これまで彼が育てた少年の一人が、現在レアル・マドリーで活躍する、ブラジル代表のロビーニョである。

ただ、最初の出会いは偶然だった。ベッチーニョが、ビーチでサッカーをしていたネイマール・ジュニア君の才能に一目惚れしてしまったのである。

そこで、経済的な理由で練習場への送迎ができなかった両親に対し、ベッチーニョは「その辺りのことを全部任せて欲しい」と、申し出たのである。

初めてのクラブはサントス市の隣に位置するサン・ヴィセンチ市のフットサルチーム、トゥミアルだった。99年、ネイマール・ジュニア君は、このトゥミアルでサンパウロ海岸地区サッカー協会のカテゴリー別年間MVPに選ばれている。ベッチーニョの予感は、まさに的中したわけである。

その後、ネイマール・ジュニア君は、トゥミアル、サン・ヴィセンチ、そしてグレメンタウというチームでフットサルをし、ポルトゲーザ・サンチスタでは、フットサルとサッカーを両立させてプレーした。

ネイマール・ジュニア君が"キング"ペレを生み出した名門サントスＦＣに所属することとなったのは、ちょうど昨年のことだったのだが、そこに至るまでには、面白いエピソードがある。

実は、当初サントスＦＣには14歳以下のカテゴリーが存在せず、当然、ネイマール・ジュニア君がサントスに所属することは不可能だった。

ところが、同じ市内のライバルクラブでもあるポルトゲーザ・サンチスタでプレーするネイマール・ジュニア君の噂をサントスが聞きつけ、実際に見てみると、類稀な才能を発揮しているその少年をどうしても獲得したくなった。

しかし、獲得したところで少年を所属させるチームがない。そこでサントスが選んだ手段は、ネイマール・ジュニア君のために12歳以下のカテゴリーを新たに編成することだった。

さらに、クラブが１日２回の食事、学校の月謝などといった生活費も保証し、ようやくネイマール・ジュニア君を獲得するに至ったというわけである。

サッカーと勉強の両立に努め両親はその姿を温かく見守る

そんなネイマール君の生活はなかなか多忙だ。

まず朝６時に起床し、６時半には家を出て父親の車でサントス市の学校に向かう。そして午前中は授業を受け（ブラジルは半日制が普通）、昼食はサントスFCで食べ、そのまま午後の練習に参加。練習は夕方に終り、夕食もクラブで食べ、帰宅するのは夜という、かなりハードなスケジュールをこなしている。

だが、それでも今は１年前よりも楽だと言う。なにせ、１年前まではこれに加え夜にフットサルをしてから帰宅し、寝るのは毎日11時から12時の深夜だったというのだ。だから、疲れ果ててベッドに倒れたまま朝を迎えることも少なくなかった。

しかし、ネイマール・ジュニア君は、そんなハードな毎日も、それほど苦には感じていないようだ。

「どんなに疲れていても、父さんも母さんも学校を休ませてはくれないよ。学校での勉強はまあまあかな。好きなのは地理で苦手なのは数学。学校との両立は大変だけど、サッカーという好きなことをやっているんだから幸せだよ」

また、そんな息子の姿を、母親のネジーネも温かい目で見守っている。

「小さいころから、本当に手のかからない子供だったわ。妹の面倒もよく見てくれるし、言われたことをきちんとやる子ね。ただ、この子でひとつだけ困ることは、ボール遊びをどこでもするから、家中のものを次々壊すことかしら。先日も、照明を壊してくれたわ。ボールが大好きで、一時は54個もボールを持っていたこともあるのよ！」

そんなネイマール・ジュニア君のプレーは、さすがロビーニョ二世と言われるだけあり、ドリブルはお手の物だ。ストライカーとしてもゴールも量産し、トップ下の攻撃的MFとしても才能を発揮する。切り込みもパスもでき、あらゆる状況を打開できる力を持っている。

利き足は右足だが、練習の成果で今では左右同じようにボールを操つれるようになった。ロビーニョがこの年代で得点力がなかったことを考えると、ロビーニョを超えているとの呼び声もうなずける。

父ネイマールは言う。

「指示を出されると、息子は言われたことを、それ以上にいつもやってのけるんだ。わが息子ながら、想像を絶する才能を持っていると思うね。客観的に見ても、将来代表に入るレベルの選手になることは間違いないだろう」

これまで所属した全カテゴリーで、タイトルや得点王を獲得してきた。一番のお気に入りは、2002年、2004年のサンパウロ州サッカー協会の年齢別ベストシューズ賞（MVP）。州内では既に知られた存在で、大きな注目が彼に集まった。だからこそ、ロビーニョやカカーの代理人で、国内屈指のやり手代理人、ヴァギネール・リベイロがわずか13歳の時に既にネイマールの面倒を見る契約を取り付けたのである。

希望に胸膨らむ少年の未来と思惑が絡む大人達の駆け引き

そして月日が流れ、ネイマール・ジュニア君は大事な14歳の誕生日を迎えた。実は、14歳という年齢は、ブラジルサッカー界において大人の入り口にあたる年齢でもある。

それは、アマチュア選手のクラブへの所属は14歳からと決まっていて、16歳になってからはじめてプロ契約を結ぶことを許されるからだ。また、18歳以下の少年は同意した両親と一緒でないと移籍はできないことになっている。

しかし、14歳のネイマール・ジュニア君の争奪戦は、既に大規模なレベルで始まっている。現在所属しているサントスはもちろんのこと、サンパウロFCやスペインのヴァレンシアからもオファーが舞い込んでいるのだ。

ただし、家族の希望はあくまでもサントスFCに残り、21歳までの契約を交わすことだという。もちろん、出来ることならサントスFCもそうしたい意向を持っているが、金銭・条件面ではまだ議論の余地があり、そこに代理人がスペインからのオファーをちらつかせたりすることで、ますます話がややこしくなってきているのだ。

Football Dream Comes True!

ネイマール・ジュニア君の未来は、もはや一家の希望とはほど遠いところで話が進むようになってしまっている、というのが実情なのである。

「サッカー選手の生活というのは普通じゃない。私も、息子との過ごす時間は32歳で引退してから、やっと落ち着いて持てるようになったんだからね」

父は、そういって自身の現役時代を振り返ったが、自身の苦い経験よりも、今は息子への期待に胸を膨らませている様子だ。そして、将来を見据え、息子には色々な注文をつける。

「父さんからは、いつも謙虚さを忘れちゃいけないと言われている。サッカー選手になるには、一番大切なことさ」

他にも、父からは、反省の大切さも教えられた。間違いを確認し、次に繰り返さないようにすることの大切さである。そして、家族と友達を大切にすることもよく言われるという。

ネイマール・ジュニア君は、もう家族に対する責任も感じているのだろうか。

「僕はまだ子供だからね（笑）。責任は父さんに任せるよ」

ネイマール・ジュニア君の夢は、ブラジル代表とワールドカップだ。好きな選手はロナウジーニョ、ロビーニョ、ジダン。だが、世界で一番上手だと思う選手は「絶対にペレさ！　ペレの映画を見てロナウジーニョもロビーニョもペレにはかなわないと思ったんだ！」と、眼を輝かせる。「将来はバルセロナでプレーしたいなあ。だって、今すごく人気のクラブじゃないか！」

すでに両親は、神様が授けてくれた息子に最良の未来が訪れるためなら、世界中のどこへでも行く覚悟はできている。

「我々の未来は、すべて神様の手にある」

ネイマール・ジュニア君の未来とネイマール一家の将来は、やはり神様だけが知っているのかもしれない。